

1. 入 門

Introduction

【1】期 間 H31. 1. 21～H31. 1. 25

【2】担当教員（◎は主責任者）

コース責任者 ◎石橋 豊（教授、総合医療学）、木島庸貴（助教、総合医療学）

担当講座：総合医療学、大田総合医育成センター、臨床検査医学講座

【3】一般目標 [GIO (General Instructive Objective)]

入門コースでは、問診から始まる初期診療の組み立ての学習が中心となります。日常診療で多い症候に対して鑑別診断を挙げ、その仮説を修正しながら考えていく思考プロセスを身につけます。

1. 問診、身体所見、検査所見から診断に導く初期診療の組み立てを理解し、基本的診療計画を立案できる。
2. 問診の基本的なとり方を説明できる。
3. 臨床推論について説明できる。
4. 血液検査、尿検査の基準範囲の意義を理解し、測定誤差の要因を説明できる。
5. 日常診療で多い症候（咳、腹痛、頭痛、胸痛）について鑑別診断を説明できる。
6. 疑問を調べる際の適切な方法を説明できる。
7. 論文を読むための基本的な型を理解する。
8. 疑問を調べる際の基本的な医学英語を理解できる。
9. 総合診療及び総合診療医の役割について説明できる。

【4】総合評価

筆記試験、中間発表、各グループの最終発表（プレゼンテーション）によって評価を行います。

【5】参考図書（購入の必要は必ずしもありません）

1. 一目でわかる病態生理（2001）、松野 一彦、メディカルサイエンスインターナショナル、3,132円
2. 考える技術 臨床的思考を分析する 第3版、Scott D. C. Stern、竹本毅、7,560円
3. 聞く技術 答えは患者の中にある 第2版、マーク・ヘンダーソン、山内 豊明、6,480円
4. 異常値の出るメカニズム 第6版、河合 志、医学書院、6,480円

5. Harrison's Principles of Internal Medicine, 19th Edition
6. ティアニー先生の診断入門 第2版 ローレンス ティアニー 松村正巳
医学書院, 3,150 円

【6】局所解剖 なし

【7】入門コースの授業の中で準備が必要なもの

- ・1月22日火曜日“疑問の調べ方”担当：佐藤誠先生
ネット環境、ノートパソコン、ipadなどネットに接続できる環境を準備しておいてください。授業中にUp to dateを使用して、実際に疑問の調べ方を行います。
授業開始前に、予め授業中に使用する機器で無線LANを使用してup to dateが開けるか確認しておいてください。
- ・症候編の講義“咳、腹痛、頭痛、胸痛”
授業までに事前学習資料を配布します。予習が必要となります。

【8】講義及びグループワークの場所について

- ・基本的に授業は、臨床講義棟1階 臨床小講堂で行います。鑑別診断道場、胸部の聴診、筆記試験は、別の場所で行いますのでご注意ください。
1月23日 6コマ目 ” 鑑別診断道場” みらい棟ギャラクシー
1月24日 3コマ目 ” 胸部の聴診” 臨床講義棟2階 臨床大講堂
1月25日 6コマ目 ” 筆記試験” 看護棟1階 N11 講義室
- ・チュートリアル室の使用について
グループディスカッションの時間は、チュートリアル室を使用することができます。